

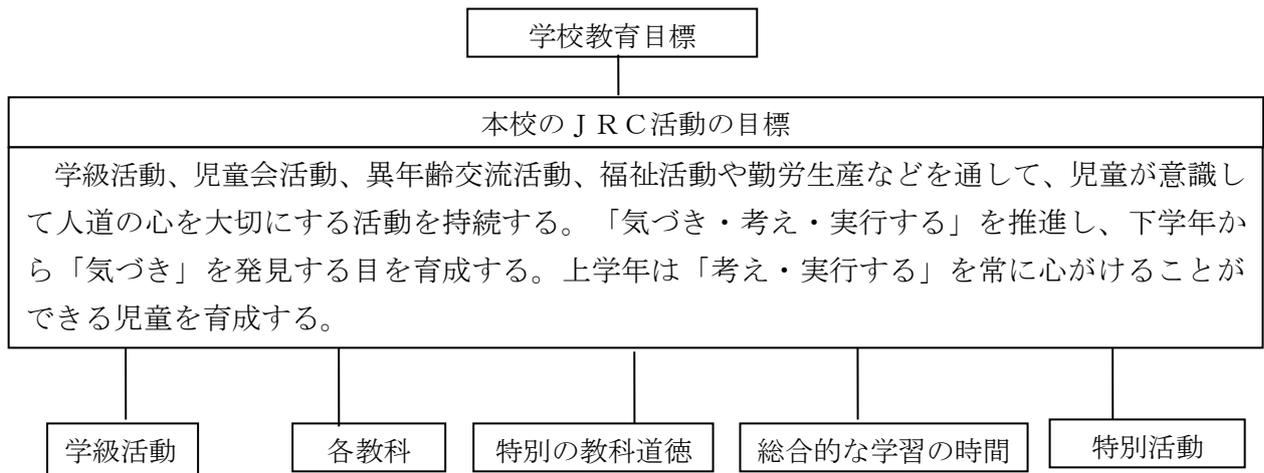
平成31年度 青少年赤十字(JRC)活動について

1 青少年赤十字(JRC)活動の目標

学級活動、児童会活動、異年齢交流活動、福祉活動や勤労生産などを通して、児童が意識して人道の心を大切にする活動を継続する。「気づき・考え・実行する」を推進し、下学年から「気づき」を発見する目を育成する。上学年以降は「考え・実行する」を常に心がけることができる児童を育成する。

*以下 青少年赤十字活動＝JRC活動とする。

2 全体計画



3 指導の重点

- (1) 日常生活の中での「気づき」として、身近な問題の発見をできるようにする。
- (2) 児童が「気づき・考え・実行する」ことができる児童になれるように、教師は声掛けをする。

4 活動計画

- ・ 取り組みの基盤は、学級活動とし、活動の成果を児童会で称賛する。
- ・ 学級でJRCリーダーを2名立て、下学年はペアの上学年学級委員団に活動報告をする。
* JRCリーダーは、自ら進んで人の役に立とうという活動やボランティア・サービス精神に意欲をもつ人材を選ぶこととする。
- ・ 代表委員会が活動の統括をする。
- ・ JRCリーダーは、名札にJRCピンバッチを付けることができ、進級の際は、それに代わるシールと交換する。6年間でより多くの児童がJRCリーダーとして認められるようにする。
- ・ 校外学習・社会見学の際には、JRCバッチを付け活動する。
- ・ 夏に開催される「トレーニングセンター研修」(資料1)への参加者2名は、6年生のJRCリーダーもしくは、代表委員会の中から決定する。

5 活動報告

- ・ 日常活動を記録したものを年度末に報告書として作成し、報告する。

6 その他

これまでの活動資料とJRCバッチ・ピンバッチは、職員室東南カラーBOX内に保管してある。

資料

・ www.jrc.or.jp/activity/youth/about/ 日本赤十字社のサイト

・ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

リーダーシップ・トレーニング・センター（以下、トレセン）は、青少年赤十字の最も特徴のある教育プログラムの一つで、集団生活を伴う学習活動の場です。

青少年赤十字メンバーはここで、リーダーとして必要な自主・自律の精神を身につけ、赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術への理解を深め、生活態度全般にわたっての学びを深めていきます。

トレセンの特徴的な取り組みとして次のようなものがあります。

- ボランティア・サービス（V S）活動・・・進んで人のために活動する
- 先見・・・朝の時間帯に、先を見通した活動を行う
- 号令のない生活の励行・・・掲示板に記載し、情報は掲示板から得る
- 気づきを待つ・・・指示を待つのではなく、自分から行動する
- ホームルーム・・・一日の反省や今後について考える

ピンバッジ(直径 1 センチ)



赤十字ワッペン(直径6センチ)

